



さいたま市議会議員（緑区）公明党

かみさか

達成

神坂 たつあき

Vol. 48

2018・新春号

発行者：神坂達成 さいたま市緑区三室 89-19 TEL048-829-1812 FAX048-831-2778

さいたま市議会12月定例会 市政レポート

原山周辺区間の渋滞解消にむけて！

国道463号バイパスは、市内の東西交通を担う大動脈となっています。また、さいたま国際マラソンのコースとしても設定されており、市内におけるシンボルルートとしても認識されつつあり



バイパス

ります。しかしながら、この道路では、原山周辺区間の渋滞が激しくなっており、慢性的な渋滞緩和を求める声が市民から多数寄せられていました。

同区間の渋滞解消については、平成28年9月の決算委員会で取り上げましたが、今回再び、まちづくり委員会で、渋滞解消に向けた施策を求めました。質問に対する答弁では「渋滞解消の取り組みとして、暫定2車線区間である本太地区約1キロメートルを、本太坂下交差点の改良を含め4車線化を行

う必要がある」としたうえで、「平成29年度については、交通状況を把握する交通量調査を実施しており、これらの調査資料を基に道路設計を実施していく」ことが示されました。今後、一日も早く渋滞解消ができるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。



人生100年時代へ長寿応援部が実現！

人生100年時代の到来が間近に迫っています。私たち公明党さいたま市議団は、誰もが生涯を通じて自分らしく、住み慣れた地域で活躍できる社会を創造するため、施策の土台となる組織体制の在り方から見つめ直しました。高齢者施策をつかさどる「課」を統合し、「部」に格上げすることで長寿応援施策を総合的に、そして、計画的かつ効率的に推進することができると思ったからです。平成27年2月定例会の代表質問で「長寿応援部」の設置を求めてより、数度にわたる議会質問を重ね平成29年11月1日、保健福祉局に「長寿応援部」が設置となりました。

この設置により、高齢者施策を包括的に推進することが可能となり、さらなる施策の充実が期待されるものとなりました。



©NEW KOMEI TO





ご存知ですか「ヘルプマーク」

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々があります。ヘルプマークで、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう作成されたものです。

外見では健康に見えても、疲れやすかったり、つり革につかまり続けるなどの同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。また、外見からは分からないため、優先席に座っていると不審な目で見られ、ストレスを受けることがあります。これらのことから、助け合いのしるしとしてヘルプマークは東京都で導入されました。この東京発のヘルプマーク、2017年7月20日にJIS(案内用図記号)に採用され、全国共通のマークとなりました。

私たち公明党さいたま市議団は、12月定例会において、多様な主体が多様な場所で活用・啓発できるよう、広く普及し、認知度の向上という観点から、さいたま市へのヘルプマークの導入を提案しています。



免許返納者へ支援を！

高齢ドライバーの交通事故状況について、県警資料によると平成28年65歳以上のドライバーが第一当事者となる人身事故は746件で、全体の19%を占めており憂慮すべき課題となっています。

しかしながら、免許返納にあたっては車を運転する機会がなくなることで、日常生活に支障が出るなどの課題により、返納をためらう方が多くいると推察されます。そのため、市議団として運転免許返納者に対して、バスチケットやタクシーチケットの配布といった移動支援策を求めました。

市からは「急速に進む超高齢化社会の課題と捉え、交通機関の運賃負担の軽減等について、現在検討を進めている」と、実施に向けた前向きな答弁が示されました。



平成29年10月20日(金)公明党さいたま市議団は、清水勇人さいたま市長に「平成30年度予算編成並びに施策に対する要望書を提出しました。この要望書は、「女性の活躍と子育て支援の拡充」「教育環境の整備と子どもへの支援」「シニアが安心して住み続けられる地域」「障がい者の自立と生活を支援」「市民の健康づくりをサポート」「市民の利便性とさいたま市の魅力の向上」「災害に強い都市づくり」「都市を支える産業の振興」「住み続けたい魅力あふれる都市」の9テーマ・全67項目にわたって構成されています。今後とも、私、神坂達成は、「市民の声の代弁者」として、皆さまおひとりお一人の声に耳を傾け、寄り添いながら行動し、その中から政策を作り、市政に反映させてまいりたい決意です。